

牛マジムン

石嶺伝栄 (1909・M42) 字比謝 (01:18)

其処^{うんま けんどう}ぬ県道^{うし}からよ、ンモンモーしな一牛マジムン
んちよ一歩^{あつ}ちゆるふーじてー。

昔^{うんかし} え年^{とうすい}寄^{ちゃー}ぬ 達^{ゆーばんか} よー、夕飯^{あとー}食^{うんかし}り 後^{うんかし} よー 昔^{うんかし}
え野^{やばん}蛮^{あつ}るやてーるふーじ^{おーい}でるやる。喧嘩^{いまよみたん}が^{にし}んち^{にし}る出
じーた^{へー}んでい^あどー。あ^{うーじゃ}んす^{とうきし}く^{ながはま}と^{ちゆ}う、今^{うんま}読^{うんま}谷^{うんま}では^{うんま}ね^{うんま}北^{うんま}、
南^{うんま}んち^{うんま}有^{うんま}し^{うんま}え^{うんま}ーや^{うんま}ー。あ^{うんま}ぬ^{うんま}宇^{うんま}座^{うんま}、渡^{うんま}慶^{うんま}次^{うんま}、長^{うんま}浜^{うんま}ん人^{うんま}
の^{うんま}ーよ^{うんま}ー、く^{うんま}ぬ^{うんま}湾^{うんま}、比^{うんま}謝^{うんま}ん人^{うんま}お^{うんま}じ^{うんま}こ^{うんま}ー 恐^{うんま}る^{うんま}さ^{うんま}す^{うんま}た^{うんま}ん
でい、あ^{うんま}あ。

だ^{うんま}ーう^{うんま}れ^{うんま}ー今^{うんま}る^{うんま}車^{うんま}ぬ^{うんま}有^{うんま}る^{うんま}よ^{うんま}ー、昔^{うんま} え^{うんま}那^{うんま}霸^{うんま}から
歩^{あつ}ち^{あつ}る^{あつ}来^{あつ}る^{あつ}ば^{あつ}ー、豚^{あつ}ぐ^{あつ}わ^{あつ}ー買^{あつ}て^{あつ}い^{あつ}ん^{あつ}樽^{あつ}皮^{あつ}買^{あつ}て^{あつ}い
ん^{あつ}何^{あつ}し^{あつ}ん^{あつ}全^{あつ}部^{あつ}歩^{あつ}ち^{あつ}、あ^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}来^{あつ}た^{あつ}んで^{あつ}い^{あつ}し^{あつ}が^{あつ}。「で^{あつ}い、
北^{あつ}ん^{あつ}人^{あつ}と^{あつ}う^{あつ}喧^{あつ}嘩^{あつ}て^{あつ}い^{あつ}ん^{あつ}だ^{あつ}」ん^{あつ}ち^{あつ}よ^{あつ}ー、う^{あつ}ぬ^{あつ}其^{あつ}処^{あつ}ん^{あつ}か^{あつ}
い^{あつ}夕^{あつ}飯^{あつ}食^{あつ}り^{あつ}出^{あつ}じ^{あつ}ーね^{あつ}ーよ^{あつ}ー直^{あつ}ぐ^{あつ}喧^{あつ}嘩^{あつ}し^{あつ}か^{あつ}き^{あつ}ーた^{あつ}ん
でい。

う^{あつ}り^{あつ}か^{あつ}ら^{あつ}ー、か^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}皆^{あつ}揃^{あつ}や^{あつ}ーに^{あつ}よ^{あつ}、牛^{あつ}マ^{あつ}ジ^{あつ}ム^{あつ}ン^{あつ}ぬ^{あつ}
ン^{あつ}モ^{あつ}ン^{あつ}モ^{あつ}ーす^{あつ}く^{あつ}と^{あつ}う^{あつ}や^{あつ}ー、「で^{あつ}い、う^{あつ}り^{あつ}絡^{あつ}み^{あつ}捕^{あつ}ら^{あつ}」
ん^{あつ}ち^{あつ}よ^{あつ}ー。あ^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}皆^{あつ}揃^{あつ}て^{あつ}い^{あつ}、七^{あつ}、八^{あつ}名^{あつ}か^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}皆^{あつ}
頑^{あつ}丈^{あつ}者^{あつ}ぬ^{あつ} 達^{あつ}が^{あつ}集^{あつ}ま^{あつ}と^{あつ}ーる^{あつ}ふ^{あつ}ーじ^{あつ}よ^{あつ}。牛^{あつ}え^{あつ}な^{あつ}ー
ン^{あつ}モ^{あつ}ン^{あつ}モ^{あつ}ーし^{あつ}来^{あつ}る^{あつ}ふ^{あつ}ーじ^{あつ}て^{あつ}ー。取^{あつ}つ^{あつ}掴^{あつ}み^{あつ}て^{あつ}い^{あつ}直^{あつ}ぐ^{あつ}
さ^{あつ}く^{あつ}と^{あつ}う^{あつ}よ^{あつ}ー。あ^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}う^{あつ}ぬ^{あつ}ま^{あつ}ま^{あつ}か^{あつ}ん^{あつ}し^{あつ}掴^{あつ}み^{あつ}て^{あつ}い^{あつ}し^{あつ}さ^{あつ}
れ^{あつ}ー、夜^{あつ}ぬ^{あつ}明^{あつ}き^{あつ}た^{あつ}く^{あつ}と^{あつ}う^{あつ}よ^{あつ}ー。

あ^{あつ}ぬ^{あつ} 昔^{あつ}ぬ^{あつ}人^{あつ}ぬ^{あつ}亡^{あつ}し^{あつ}ーね^{あつ}ー龕^{あつ}ち^{あつ}有^{あつ}し^{あつ}え^{あつ}ーや^{あつ}、墓^{あつ}
ん^{あつ}か^{あつ}い^{あつ}持^{あつ}つ^{あつ}ち^{あつ}行^{あつ}ち^{あつ}ゆ^{あつ}し^{あつ}え^{あつ}ー。あ^{あつ}ぬ^{あつ}龕^{あつ}ぬ^{あつ}先^{あつ}ん^{あつ}か^{あつ}い^{あつ}ユ^{あつ}ー
ユ^{あつ}ーぐ^{あつ}わ^{あつ}ーぬ^{あつ}有^{あつ}し^{あつ}え^{あつ}ーや^{あつ}尖^{あつ}い^{あつ}ぐ^{あつ}わ^{あつ}ーぬ^{あつ}、う^{あつ}り^{あつ}な^{あつ}と^{あつ}ー
た^{あつ}んでい^{あつ}。牛^{あつ}や^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}ん^{あつ}た^{あつ}んでい^{あつ}、う^{あつ}り^{あつ}る^{あつ}な^{あつ}と^{あつ}ーた^{あつ}ん
でい^{あつ}。う^{あつ}り^{あつ}ん^{あつ}親^{あつ}ぬ^{あつ}達^{あつ}あ^{あつ} 話^{あつ}。

【共通語訳】

そこの県道からね、ンモンモーと牛マジムン(化物)が歩いたようだね。

昔の人たちは、夕食後にね、(特に理由が無くても)喧嘩をしに通りへ出てきたそうなんだよ。野蛮だったんでしょね。読谷では北、南とあるでしょう。だから、北方面の宇座や渡慶次、長浜の人たちは、この(通りに面した)大湾、比謝の人たちをととても恐がっていたんだってよ。

だって、今でこそ車もあるけど、昔は那覇への行き来も歩いてだからね、豚や樽を買うにも何でも歩いていたというからね。比謝の人たちは「さあ、北方面の人と喧嘩してみよう」と、夕食が済むと、すぐ喧嘩を仕掛けに通りに出たそうだよ。

そうして、このように皆が揃っている時に、牛ガンモンモーと啼くので、「さあ、それを絡め捕ろう」ということになってね。それで、七、八名の強健な者達が集まって、牛が啼きながら来るのを皆で取り押さえたようだ。それで、夜が明けるまでそのまま捕えておいたんだって。

昔は人が亡くなったら、遺体を墓へ運ぶための龕というのがあるでしょう。その龕の先にはユーユグワーという尖った飾りがあるけど、皆が捕まえた牛は夜が明けて見たらそのユーユグワーになっていたんだって。これも親たちから聞いた話だよ。